

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 一般国道13号 河辺拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 東北地方整備局
起終点 自：秋田県秋田市河辺神内 至：秋田県秋田市上北手古野	延長 6.6 km	
事業概要 一般国道13号は、福島県福島市と秋田県秋田市を結び、広域交流の支援並びに沿線市町村の連携強化を図る幹線道路である。 河辺拡幅は、秋田市河辺地区における国道13号の交通混雑の解消等を目的としている。 当道路の整備により、交通混雑が解消し秋田空港へのアクセスが向上するほか、歩行者・自動車相互の安全性向上が図られる。		
H3年度事業化		H3年度都市計画決定
全体事業費 180億円		事業進捗率 40%
計画交通量 17,400台/日		供用済延長 2.4km
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 1.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 101億円/194億円 (事業費 : 74億円/168億円) (維持管理費 : 27億円/27億円)
		総便益 (残事業)/(事業全体) 144億円/257億円 (走行時間短縮便益 : 126億円/229億円) (走行経費減少便益 : 15億円/22億円) (交通事故減少便益 : 3億円/7億円)
基準年 平成22年		
感度分析の結果 【残事業】 残事業について感度分析を実施 交通量変動 : B/C=1.5(交通量 +10%) B/C=1.3(交通量 -10%) 事業費変動 : B/C=1.3(事業費 +10%) B/C=1.5(事業費 -10%) 事業期間変動 : B/C=1.3(事業期間 +20%) B/C=1.5(事業期間 -20%)		
事業の効果等		
①渋滞の解消 ・4車線化により十分な交通容量が確保されることで、日常生活交通の円滑化が図られ、渋滞の解消が期待される。 ②第三次救急医療施設への速達性向上、搬送患者の負担軽減 ・4車線化により、救急車両が一般車両を追い抜くことが容易になり、救急搬送の速達性が向上する。 ・渋滞解消により、停車・発進回数が減少することで、搬送患者の負担軽減が期待される。 ③秋田空港へのアクセス向上 ・空港へのアクセスが向上することで、さらなる観光産業の振興が期待される。 ④幅員狭小な歩道の解消による通学路の安全性向上 ・片側3.5mの歩道が設置され、歩行者の安全性が確保される。 ⑤交通事故の減少 ・部分供用区間では、年平均死傷事故件数が約6割減少しており、残区間についても4車線化による事故の減少が期待される。		
関係する地方公共団体等の意見 秋田市（秋田市長）や秋田県（秋田県知事、秋田県議会議長、秋田県議会建設振興議員連盟）から、河辺拡幅の整備促進についての要望を受けている。 県知事の意見：継続に意義ありません。県民の安全・安心の確保、地域活性化を図るため、一層の事業推進をお願いします。		
事業評価監視委員会の意見 対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率40%、うち用地進捗率36%		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業進捗に係る問題はない。現在事業中の区間については、早期の供用を目指す。		
施設の構造や工法の変更等 ・工期短縮に効果的で経済的なプレキャスト長尺製品を使用し、コスト削減を図る。 ・今後、詳細な設計見直しに際しては、更なるコスト削減を図る。		

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

秋田市河辺地区における国道13号の交通混雑の解消、秋田空港や第三次救急医療施設への速達性向上等、早期整備の必要性が高い。

また、地元自治体からの事業促進の要望活動も強く行なわれている。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。